

単元名 8 自分を見つめる ーさくらはなびら

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 表現技法の種類と効果を理解して、詩を読むことができる。
 (2) 詩の解釈を通して理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
 (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとする。

標準的な展開例

10210309_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 表現技法を確認しながら、作者の思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 表現のしかたに着目して、作者の思いを考えよう。 ○ 詩を読み、印象に残った表現を発表する。 <p>○ 三つの表現の意味を考える。</p> <p>○ 作者について話し合う。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出して、理由とともに発表させる。 ・ 平易な言葉で書かれた短い詩であるため、言葉が素通りして、印象に残らない生徒もいると考えられる。その場合、あまり時間をかけずに次の活動へと授業を展開する。 ・ 以下の三つの表現について、意味を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ① さくらは なびらが じめんに たどり ついた ② いま おわったのだ そして はじまったのだ ③ かけがえのない ひとつの ことが ・ 「黄色の吹き出し」(p.236)の言葉に着目させて、理解を促すとよい。また、表現技法について確認するとよい。 【評】 三つの表現に着目し、詩の解釈をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 読み深めたことを基に作者の思いを想像し、考えたことを話し合わせる。 【評】 読み深めた内容を話し合い、作者について考える活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

表現に込められた書き手などの思いやものの見方を理解することは、大事なことである。表現の工夫とは、単なる飾りではない。表現を工夫することによって、いつそう的確に描き出せたり、より効果的に伝わるようになってきた書き手や話し手の思いやものの見方などから、表現効果なども踏まえながら自分の考えをもてるようにさせたい。

また、「少年の日の思い出」は、ものの見方、感じ方、生き方の違いについて、じっくり考えさせたい作品である。これは道徳のCー(11)正義、公正・公平にあたり、これを機会に差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高めたい。